

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0894400050		
法人名	(株)ソラスト		
事業所名	グループホームソラスト利根	ユニット名(Bユニット)	
所在地	茨城県北相馬郡利根町早尾字早尾台610-1		
自己評価作成日	令和 3年 1 月 29 日	評価結果市町村受理日	令和 3年 4 月 8 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0894400050-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階
訪問調査日	令和3年3月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様一人、一人の生活歴に合わせその人らしい生活ができるように努めている。また、料理には力を入れており、買い出しも自分たちで行いメニュー等、自分たちで行いご利用者様の嗜好に合わせた食事の提供を行っている。地域とのつながりに関しても、福祉避難所を引き受け地域の皆様にもより貢献できるように心がけている。今後、よりご入居者様、地域の皆さんに貢献できるように努めていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は閑静な住宅地の一角にあり、近隣には公園や馴染みのパン屋、飲食店があり、日常的に利用者が安全に散歩ができ、のんびりと穏やかに暮らせる環境に立地している。利用者が食への関心や楽しみに繋がるよう職員が献立を立て、週一回の買い出しをして調理し、器にこだわりを持ちながら、高級飲食店で食べているかのような配慮に心掛けて提供している。職員は、本部で実施している「ソナスクール」を各自ネットで受講してテストを受け、100点をとるまでは何回もテストを受ける仕組みから職員一人ひとりが知識の確実な理解を得て利用者の支援をしている。同敷地内にあるショートステイやデイサービスの看護師に利用者の健康相談が常時できる体制と清潔保持として週2回の入浴と週2回の足浴を支援するなど利用者が毎日健康に過ごせるよう配慮している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	人を元気にするという会社の理念、2020年度から作った事業所独自の「心」という理念を掲げ、ご入居者様一人一人に合わせた生活の提供を心掛けている。	理念の中にある「思いやる心」を意識し、利用者一人ひとりのやりたい事を支援するように心掛けているが、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念となっていない。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念の作成を期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2020年度は感染対策として中々、交流が難しい年ではあったが、できる限りの交流は心がけている。 福祉避難所の引き受けも行った。	地域住民から認知症に関する介護相談を受け入れている。「ソラスト利根祭」に家族等や地域住民を招待し、交流している。地域の高校の職場体験を受け入れている。行政の要請で、災害時の福祉避難所になっており、引き受けも行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	従来通り地域の皆様の相談も電話にて引き受けている。 センターの特性を活かし認知症の介護を行っているご家族にいろんなサービスの提案を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2020年度は感染症拡大防止の為、運営推進会議は書面での開催となっている。 ご意見を頂いたことに関しては、職員で共有を行い改善に努めている。	現在は書面での開催となっている。認知症について知りたいという地域住民が委員会メンバー以外にもいて、運営推進会議の場を使って勉強会を開催した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から積極的にコミュニケーションを取り、協力関係を作れるようにしている。 様々な面において情報共有をしている。	管理者は介護認定更新時などで役場の担当者を訪問し、事業所の実情を話しながら情報交換し日常的に協力関係を築けるように心掛けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1回、身体拘束に関しての検討会を行っている。 入居者様の状況の把握もきちんと行い、身体拘束を行わないように努めている。	身体拘束等の適正化のための対策を検討する委員会設置し3ヶ月に1回の開催を実施している。職員は法人がネット配信している「ソナスクール」で各自研修を実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	所内研修も行い、虐待に関する知識の向上を行っている。ご入居者様の自尊心に配慮したお声掛けができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人の方とは密に連絡を取り、ご入居者様が希望に合った生活ができるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、料金面、看取りの面等、しっかりと説明を行い、不安を抱かぬように努めている。 またいつでも質問等を受け付けられる体制づくりをしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置いつでもご意見を頂ける体制づくりをしている。	重要事項説明書に苦情・相談受付機関を明記しているとともに玄関に意見箱を設置している。面会時には必ず声をかけを行い、意見や要望、困りごとはないかなど聴くように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の際に職員の意見を聞き、また定期的な面談を行うことで職員の思いを把握・反映できるように努めている。	職員一人ひとりが管理者に言える仕組みでもある「気づきシート」を活用し、職員から管理者、本社と伝達され、改善する事があるとすぐに対応する仕組みを導入している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度を導入しており職員がステップアップできるように努めている。 ストレスチェック等も行い職員の精神面のフォローも行うようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	所内研修、WEB研修の活用により職員がスキルアップできる環境づくりを会社を挙げて行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	エリアトレーニングやセンター会議を行っており他サービスとも交流が持てる環境になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテーク時にご本人様、ご家族様の思いの聴き取りを行い、その人らしい生活が送れるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の思いに関しても聴き取りを行いケアに反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	センターの特性も活かし居宅、DS、SSと連携を取り支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員もコミュニケーションを積極的にとり共同生活をするものとして、信頼関係を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とも積極的にコミュニケーションを取り、ご入居者様のケアに反映させている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様や、ご友人が気兼ねなく来れるように配慮している。 2020年度は感染対策として難しい部分もあったができる限りの対応をしている。	入居時のフェイスシートや利用者との日々の会話や家族等からの話で馴染みの人や場所などを把握し、関係継続の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配慮などご入居者様同士が楽しめる環境づくりをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後でも、電話等による相談を受け付け 必要に応じてGHの再申し込みの提案も 行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入居者様、ご家族様の意向の確認を行い その人に合った生活の提供ができるように 努めている。	表出困難な利用者とは、態度や表情から汲み取り職員間で相談しながら把握するように努めている。利用者が関心がありそうな言葉を組み込みながら会話し、思いや希望、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の生活歴を大切にし、今まで通りの生活ができる限りできるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	変化があった時、記録に残しその人の今に合ったケアができるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを行い、一人一人に合った生活が提供できるように努めている。	利用者や家族等の意向を基に、医師の意見を聴いてケアカンファレンスを実施し、利用者に合う計画書を立てている。3ヶ月ごとにモニタリングを行い、基本半年で見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録や申し送りノートを活用し職員同士で情報の共有ができるよう環境づくりをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様や、ご家族様の話を聴き取りし柔軟に対応できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員の方や、地域の方とのコミュニケーションを取り安心して過ごせる環境づくりをしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様の日々の体調に関しては細かく確認を行いご家族様や、協力医と連携を取り適切な医療が受けられるように支援している。	契約時に利用者や家族等に希望するかかりつけ医への受診が可能なことを説明している。同敷地内にあるショートステイやデイサービスの看護師との連携で利用者の健康状態など相談ができる協力体制がとられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護とも24時間連絡が取れる環境になっており、体調面の相談などをいつでも受けられる環境になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	MSWとコミュニケーションを取り入院した場合でも安心して施設に戻ってこれる環境になっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りになった場合は、ご家族様、協力医と連携を取りその人らしい生活が送れるように支援している。	契約時に重度化や看取りに関する指針を説明し、同意書を得ている。状況の変化に応じた繰り返しの話し合いと、段階的な合意を行っている。職員は重度化や看取りについて、法人がネット配信している「ソナスクール」で各自学んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルに基づいて、適切なケアをできるようにしている。 また、コロナ感染についても会社全体でフォローができるよう体制づくりをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回以上の避難訓練を行い、有事の際に落ち着いて対応ができるようにしている。	避難訓練を年2回以上行っているが夜間想定での訓練を行うまでには至っていない。訓練後反省会を行っているが今後の課題を話し合い、記録に残すまでには至っていない。	夜間想定を含む年2回以上の避難訓練が望まれる。前回の課題、住民の参加得た訓練とともに、訓練後職員の反省会の開催と今後の課題等を記録に残すことを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに関する研修(所内、WEB)を行いご利用者様の権利擁護ができるように努めている。	日頃から利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけに配慮している。個人情報に関する同意書があり、肖像権に関しては都度同意を得るようにしている。職員は法人がネット配信している「ソナスクール」で各自研修を実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の希望に合わせたケアができるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設に合わせた生活ではなくご入居者様の体調、気分に合わせて生活が送れるように勤めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の選択はご本人様に確認を行い、季節に合ったご本人様が着たい洋服を着れるようにケアを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お一人、お一人の嗜好に合わせた食事の提供ができるように努めている。	献立は職員が決めて買い出しに行っている。ユニットごとに献立が違うので、利用者が希望すれば別のユニットの献立も食べることができる。食器にもこだわり、お店のような器に手作りで盛り付けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量の記録は細かく残り十分な食事、水分が取れるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い清潔が保てるように努めている。 また、必要に応じて訪問歯科に依頼できる環境になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人様の排泄パターンをできる限り把握してできる限りトイレでの排泄ができるよう努めている。	排泄チェック表等から利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、それぞれに合った声掛け、誘導を行うことでできるだけトイレでの排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	協力医と連携を取り、排便管理を行い適切な排便習慣となるように対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、その日の体調や気分に合わせて臨機応変に対応している。	週2回の入浴と足浴での対応で、清潔保持に努めている。感染症予防として、足浴を実施し、足拭きマットの上に個別のタオルを敷き、その都度交換している。柚子湯や菖蒲湯で季節感を味わったり、入浴剤を使用し、温泉気分を味わえるなどの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人様の体調に合わせて、休みたいときには休める環境にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理、薬の副作用に関しても把握しケアをしている。 薬剤師とも連携を取り薬の効果確認も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様の趣味に合わせた趣味の時間の提供を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	感染対策で難しい部分もあったが、近隣の散歩等外出の機会を設け、気分転換ができるよう努めている。	天気の良い日には、事業所周辺の近隣のパン屋への買い物や近隣の公園などで散歩している。事業所のウッドデッキで、日光浴や外気浴を楽しんでいる。事業所内で草取りをする利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様にとって本当に必要な物かどうかの確認をしっかりと行い、ご家族様とも相談をしたうえで購入をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や、手紙に関してはご希望があれば自由に行えるように対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明等も刺激にならぬように暖色の物とし落ち着いて過ごせる環境にしている。	玄関の壁に収納椅子が設置され、靴の着脱時の転倒防止や安全に配慮している。両ユニットから出入りできるウッドデッキで日光浴を楽しんでいる。居間兼食堂は、天井が高く広々しており、小上がりの和室で寛ぐことができる(冬には掘りごたつになっている)他、廊下も手すりの設置により歩行訓練ができるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の際の席の配慮等、ご入居者様同士の関係性にも配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご希望があれば希望の物を持ち込んで頂き安心して過ごせる、居室と慣れるように対応している。	居室にはエアコンやベッド、カーテン等が備え付けられている。管理者は利用者や家族等に使い慣れた馴染みの品物を持ち込んでもらうように説明している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置、動線の確保ご利用者様が残存能力を活かして過ごせる環境となっている。		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名 グループホームソラスト利根

作成日 令和 3年 4月 8日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念の作成ができていない。	地域密着型サービスの意義を踏まえた、事業所独自の理念の作成	全体会議時に、職員で話し合いを行い、ソラスト利根の特性に合わせ、地域密着型サービスの作成を行う。	1ヶ月
2	35	夜間想定避難訓練の実施、避難訓練後の反省会今後の課題の記録。	有事の際にも、落ち着いて対応できる施設の体制	6月実施予定の避難訓練の際は夜間想定で実施する。また、避難訓練の際にはセンター全体、地域も巻き込み反省会、課題づくりにもしっかりと対応していく	3ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。